いわき新報

月二十七日夕刊

印刷人　福島縣石城郡平町一町目二九　株式會社　平活版所
廣告料　五號十二字詰一行四拾錢場所指定拾錢增
休刊日　日曜。大祭祝日。
代價　一部　金貳錢
新聞　一ヶ月　金五拾錢

編輯兼發行人　小野務平

發行所　磐城通信社
○三路小ナフイサ町平驛前通
電話四六五番

●東京特信

大杉氏の半面

大杉榮を中心に先妻の堀やす子神近市子の三角關係から更に神近市子伊藤野枝の三角關係に移つて例の葉山日蔭茶屋における市子の刃傷沙汰を惹起したのは今から七年前の大正五年十一月九日であつた、以來大杉と野枝の仲は主義者としてまた主義者の妻として一分の隙もないほどびつたりと意氣相投じて傍の主義者仲間でさい一樣にうらやんだくらゐであつた、市子の兇行當時世間の多くは市子に同情して葉山へ大杉氏を見舞つた、宮崎資夫氏ですら激昂の餘り病院の玄關先で野枝を「戀盜人」とばかり衆人の前で罵る毆るしてはつかしめたのもこの時だが世間の嘲笑も反感も二人の仲を深めこそすれべだるすべにはならなかつた、野枝が初めて大杉と相知つたのはフランス語講習會の講師時代神近市子と相ゆるして堀やす子と別居し麴町三番町に下宿屋住まひをしてゐるころからだ、その後間もなく野枝は夫辻潤氏と子までなした仲を分かれて大杉のもとへ赤つたのは餘程の思ひがあつたにちがひない、そして飽くまで理智にかつた市子が女性としての嫉妬と情熱に戀の一奴隷として愛人と共に死なんと期してやつたことが反對の結果となつて野枝は大杉を完全に獨專することになつたのだ。

姉御肌の野枝

野枝は大杉と十ちがひの廿九歳で福岡の今宿在に生まれ上野高女を出て暫く青路社の編輯をやつてゐたことは人も知る通りだが辻潤氏とわかれて大杉と晴れて一家をなしてから今日までに歐露の革命家の姓名をそのままに命名した長女のマコ（七ッ）を初め エマ（五ッ）上海の妹夫婦の養女として幸子と改名エマ（三ッ）ルイズ（二ッ）の四女とつい先月の八日に露國の革命家ニストルの傳記草中にうまれたばかりの男の子ニストルと都合五人の子の母として召し使の婆さん伊藤もと（五〇）と一緒に家庭の一切を切りもりしてゐる主義者の妻として與へられた唯一の女性といつてもよいくらゐにしつくり大杉の氣質に當てはまつてゐて身のまはりから出先の事まで全部自分で引受け常に後顧の憂ひなからしめてゐた野枝は胸で夫大杉として常に自由に主義の爲に活動させてゐた。

文藝募集

或る夜の樂屋

旅にて——　鈴蘭草

「君！急いで仕度をしなくちや駄目だぜ」

學生にフンした二枚目らしい若い俳優が一心に女の顔をこしらへていた男優にこう云つた。

「あゝもう顔はすんだよ時に今夜の入りはどうだい」

彼はハケで鼻頭を撫で乍ら聞えた。

「君！駄目だよ何しろあの震害がタタつて處が景氣なんだからね」

彼は苦笑し乍ら「本當にこうんな時は我々が一番慘めな目にあつてもんさね」「でも雨の降らないのがせめての幸さ」女形は立上り乍らこう云つた一つしか電燈の付けてないせま苦しい樂屋は足のふみ所も無い位衣裳や何かが無造さに散らかつて見てさへも暑ッ苦しさうだつた。

間もなく二人は連れ立つて奈落へ消えて行つた、

「イヨウ待つてました御兩人！」等と大向ふから盛んに聲がかゝる。

あとは下廻りらしいのが二人鏡に向つて顔に取り掛つた時々見物席からドッと笑聲が起る其の度に樂屋の俳優達の目が舞臺にそゝがれた。多くの俳優達中でもどことなく重みのある座長らしいのが人の好ささうな頭取らしいのと何か語り乍ら氣持好ささうに笑つてゐたやがて木がなつて幕になると役のすんだ俳優達がドヤドヤと大勢樂屋へは入つて來て各々勝手な冗談を言ひ乍ら目張りを入れたり眉を引いたりして顔を直じに掛つた。十二三位の女子役が手早く着物をぬぎながら、

「あんチャンあたいね、あの臺詞が面倒で困るのよ」

とませた事を云ふ學生にフンしたさつきの俳優は「そうかい」と一言云つた儘奈落へは入つた。

舞臺裏ではさつきの下廻りイ舞臺の俳優が出て行つたそして開幕前の樂屋はさわがしい

「おいきみ[illegible]の次が出だよ」「えゝ解つてますよウ」開幕だ。子役がバタ〳〵と奈落へ歩つた。一人又女形も出て行つた。三味の音が寂しく聞ゆる。樂屋の俳優達もさつきのさわぎは處所へやら俄かに眞面目な顔になつた見物席も樂屋も靜かだ。丁度嵐の後の樣に……。

おはり

一九二三・九・二二夜作

今般縣會議員改選に際し多數有志各位の御推薦を辱ふし第一區候補に相立ち候處望外の御同情を蒙り當選の榮を得候段感銘に堪ず候不取敢紙上を以て御厚禮申上候也　敬具

九月二十六日

井上茂作

今般縣會議員改選に際し多數有志各位の御推薦を辱ふし第二區候補に相立ち候處望外の御同情を蒙り當選の榮を得候段感銘に堪ず候不取敢紙上を以て御厚禮申上候也

九月二十六日

小野晋平

今般縣會議員改選に際し多數有志各位の御推薦を辱ふし第三區候補に相立ち候處望外の御同情を蒙り當選の榮を得候段感銘に堪ず候不取敢紙上を以て御厚禮申上候也　敬具

九月二十六日

古川傳一

くあげねばならぬので、菊江の苦心と言ふものは尋常一樣なことではなかつた。菊江の苦心はそればかりではない、おでんの賣れるのも表彰されました。今回の東都の震災の爲め親子四人の者はどうなりましたかおしき處で筆をとめることにいたします

良品廉賣店　福洋銅鐵金物問屋　鈴屋商店
電話長九番　平町一丁目　大平屋藥舗
は！
平驛前通　日乃出屋　四番

第二區に現はれた政憲兩派の勢力

玉川、泉、高久は優勢 豐間、夏井努力の要あり

本郡第二區の政友派公認小野晋平氏は種々なる關係から非常に不利益の立場に陥ち之れに乘じて漁夫の利を占めんとした憲政會にては凡ゆる流言蜚語を流布して旺むに煽動の氣勢を揚げたる結果、田子老の勢力は

意外に よく爲めに憲政會にては當選些さかも疑なしと自惚れまた政友會或方面の觀察は約三百位の差にて勝つか夫れとも次第によりつて小野氏落選の慘を見るにはあらざるやとさい見られた程であつたが結果は豫定の如く總票の約三分の二を占めるに至つたが各町村の分野を示せば如左し

	小野	田子
夏井	八四	一五六
高久	一四八	九九
飯野	一六一	九七
豐間	一一四	一八四
小名	四八七	二七
泉	二四五	一六二
鹿島	一〇二	七七
玉川	一四六	八三
江名	二六六	一〇九
合計	一七五一	九九四

由是觀是と小野派が如何に苦心を嘗めたかを察するに充分なるものがある。小名濱は別として泉、玉川、鹿島飯野、高久、の各運動關係有志が如何に熱心な努力を捧げしかは容易に察し得るものありまた江名町も相當の成績には達してゐるが同地は町長中山元治氏を廻る粒揃への政友會

萬能の 地たるに比較して些さか物足らざる感なき能はず殊に豐間、夏井、の兩村に至つては其振はざる

誇るに足らず 第一區の政友派

勝つて兜の緒を締めねば 自然の廢滅は免れず

流石は郡の首都である第一區の勝負は將來本郡全體政憲兩派の勢力の上に至大なる關係を有する事として兩派に最大限の努力を捧げたる事は過去何時の時に於ても見る事の出來ぬ程緊張味を見せた即ち井上茂作氏は

一票の 洩れなく小野派に有利なる情報は投票の前日まで同地有志が公言しなしたに豈計らずも四分に到らざりしは餘りの意外事にして若し斯くの如きが實際の勢力なりとすれば政友派の爲めに尙ほ一段の努力を必要とする所であらう。

餘りに甚だしきものがある由來夏井村は

鈴木氏 直系下にありて政友六、憲政四、は平常の分野勢力である、憲政會が如何程狂奔すると雖とも五對五の得票は政友派の容易なる處なるに三分の得票は餘りに心細くまた豐間村の如きは政友九分の地勢に在り殊に沼之內薄磯の如きは殆むと

百二十票を超さず、 平町また六分を得るには可成の努力を要す事とて如何に

最負目 に見るとも絶對に安全を容さざるのみが若し木田派に於て金に糸目を付けざる非常手段に出てるに於ては到低敵すに難きものあり、爲めに井上派は飽くまでも正義を楯とし言論戰に如くものなきを覺り

鋒先を 轉じて各地に言論の旗を揚げた結果が即ち人物本位に立脚する理想の選擧てう事を克く選擧民に徹底せしめ得た事が即ち勝を得た一因である事は爭はれぬ事實である。而して廿四日以來內郷村の形勢一變してより平町に於ける井上軍の氣勢頓に昂り一擧に

敵壘を 突いた結果が多數を得たものであるらしい、一方憲政會に於ては廿五日の朝に至つて當選些さかの疑ふ餘地を認めず福島の支部に於ても確算してゐたもので此回の勝負は政友會から見れば決して誇りとするに足らず、殊に自然の

流れは 從來の型にある政友會と漸次遠さがりつつあるは今次の票數が明瞭に物語つてゐるもので政友會は宜しく勝つて兜の緒を締める態の深い用意と覺悟を要する事であら

田織江氏に比へで些さか立ち遲れの感ありし事と

軍費の 上に於て木田氏の前には敵す能はざる事が非常なる痛手であつたらしい、而して內郷村は絶對的憲派の優勢地帶にして井上派が得る票は約百票乃至

第四區開票結果

當選 一四〇〇票 猪狩金之助氏（憲）
當選 一三九九票 木村清治氏（政）
次點 八三五票 鈴木辰三郎氏（政）
次點 二七票 門馬安次郎氏（憲）

天明莫くして 鈴木氏遂に破る

陰謀術策に弄ばれて 正義は遂に粉碎さる

天は遂に此の人を見る明なつた事は本郡の爲めに一大く、鈴木辰三郎氏は果敢なく も此の差違によつて第四區にたほれた氏は素り

犧牲を 一身に覺悟したるが氏の人格と手腕とに喝仰する多數の同志選擧民は如何にしても氏を當選せしめねば止まぬ……と云ふ赤誠から休戰後拾餘日殆むと寢食を忘れて善戰した結果二十四日朝までの形勢は第一等地を拔き最高黑を以て當選、

確實を 傳へられたが二十四日暴風雨の夜陰に乘じて手段を擇ばず態の敵の術中に陷りたるものの如くあたら得難き我が郡政治界の鬪將は遂に男々しくもたほれて了つた第四區選擧民の多數は金力と手段と術策の前に

降伏し て眞に正義一貫の士を見る事が出來なかつた事は本郡の爲めに一大恥辱であり補し難き大損失であると云はねばならぬ而して此番狂はせな結果を見た最もの理由原因に就いては暫らくおき門安氏の得票が餘りに

微細な る所より見ると彼は自己以外政治的生命も道德も眼中になき或る術策家の掌中に弄弄され遂に投票の切賣りをしたものに一大原因を發するものでは無いかとさい噂されてゐるが若し斯くの如き面黑い事實に因つて鈴木氏が敗慘の源をなしたとすれば近き將來に於て何等かの變調を見るなきを保し難く觀測されてゐるがその推移如何は後日稿を更めて報導する處あるべし

天氣豫報 廿八日 石城 南西の風

（大正十一年九月九日）

殉職 緑川小頭の葬

◇空都百態◇ 在京記者

初午よろしく

東京の子供が、さ[illegible]日警ごつこをやつてゐる。山の手の燒殘りの町の路地空地に彼等は棒切れ石くれの店頭に爭ひ食はれてゐる惨。また惨、謂ふべき語を知らぬ。

鳥打帽

故緑川佐伯葬送之際は遠路態々御會葬被下難

農品廉賣に勝る商略なし

平町五五番地 和洋銅鐵 金物問屋

殉職 緑川小頭の葬儀

柩を載せた車の軌り悼しく

盛嚴を極めた町民葬

去る二十日の正午突如として起つた白煉瓦工場よりの發火は猛煙渦を卷いて鐵道以北一帶の市街を包み今や平町の半街は魔の淵に陷ちむとした折柄一身を挺して消防に盡力中俄然落下し來たる梁の下敷となつて悼ましくも遂に殉職した吾が平消防組小頭一部長緑川佐伯氏に對する全町擧げて嘘は翕然として集まり殆むと前古異例の町民葬を以てその葬儀は愈々今二十七日執行された

昨夜來深い霧に包まれた天空地に設けられた特別祭檀も今日の喪儀をいや盛むな場に至りいとも壯嚴なる祭らしめんが爲めかガラリと式を行ひ夫れより更らに柩晴れた秋の空を白雲の急走は南町を横斷して本通りに飛び去る樣は神も之れを悼むが如くいとど悲しさを誘ふ……

此の日朝來より毎々と詰め寄せる幾百千の人達は材木町の緑川邸を埋め

正裝した消防幹部や組員が應待に急がしく本縣知事代理松崎保安課長を首として消防關係、伊藤平署長、植田、四倉分署長、郡下各消防組頭並に幹部代表者平町會議員其他凡ゆる有志千數百名、正午十二時柩はポンプ

臺車に移され正裝した消防組員に護られ幾對とも知らぬ寄贈の花輪吊旗に圍まれて南町より公會堂側に柩を

安置して僧侶の讀經其他齊式を終やし午後三時過ぎ埋葬を了したが沿道柩を載せた車が砂利噛む軋の音はいとも物悲しく堵をなす見送りの人達をして泣かしめたが近來稀に見る盛儀であつた

表彰狀

平消防組小頭　第一部長　緑川佐伯

大正十二年九月二十日平町品川白煉瓦工場大火ニ際シ挺身危難ヲ顧ミズ消火ニ盡力ヲ以テ人命財産ノ救護ニ從事中偶々災危ニ遭ヘ遂ニ職ニ殉スルニ至リタル其功勞顯著ニシテ實ニ一般ノ模範トスルニ足ル仍テ茲ニ其功績ヲ表彰ス

大正十二年九月二十七日

石城郡消防協會長
福島縣警部
勳八等　伊藤儀七

平少年赤十字團

震災活動 經過

收支決算左如

平町少年團主催の東京地方震災災害民救濟の意味に於ける義捐金募集の東都震災活動寫眞會は既報の如く二十日開催せるが意想外の成功を收めたと

震災義捐金募集決算書

收入
一金五百十一圓三十錢　收入總額

內譯
金參百六十一圓五十錢
一千二百五人分　大人入場料
金一百四十六圓八十錢　一人金三十錢宛
小人入場料
一人金十錢宛

一千四百六十八人分　寄贈金二人

金三圓

支出
一金一百三十一圓三十錢　支出總額

內譯
金七十圓　會場借料
金九圓二十錢　印刷費
金二十三圓五十五錢　諸雜費
金二十八圓五十五錢　少年赤十字團維持費ヘ

純益　金三百八十圓
差引
義捐金寄附總額
內
金一百圓　平町在住罹災民ヘ贈呈（平町役場依托）
金二百八十圓　東京震災義捐（東京日日新聞社依托）

因に其收支決算書は左の通りである

空都白態

◇在京記者◇

●初午よろしく

すねどん、牛丼、カレーライスも普通になると、路傍の此處彼處に、狐の繪、鳥居の繪をかいた旗が飜り、旗の下では「おいなり」さんが賣られてゐる。東京人はつねに天麩羅と豆を好んで食つた、涵壽司がよく賣れるのも道理だ。

●自警ごつこ

戰爭後の戰爭ごつこの如く東京の子供が、さ[illegible]警ごつこをやつてゐる。山の手の燒殘りの町の路地空地に彼等は棒切れ石くれを以て軍隊、青年團、町內自警團のやる眞似をして跳廻る中で弱いのが無理やりに朝鮮人に仕立てられてベソをかいてゐる。

●彼岸と新亡靈

彼岸である。十萬に近き新亡靈は祭らるる寺もなく埋められし墓もない。佛前に供へらるべき團子は生きし人によつて餓虎の如く路傍の店頭に爭ひ食はれてゐる慘。また慘、謂ふべき語を知らぬ。

●鳥打帽

麥藁帽は破れてペチャンコになり平年ならソフトといふところだが品もなく買ふ餘裕もない丸ビル內の竹內製帽あたりで廉物の鳥打帽が頻りと賣れる散步用旅行用の古物もこの時一齊に被り出されてゐる。冬に入るまで鳥打帽は東京人の頭を占領することであらう。

故緑川佐伯葬送之際は遠路態々御會葬被成下難有御禮申上候混雜中御尊名伺洩も可有之乍略儀此段以紙上御厚禮申上候也

大正十二年九月廿七日

男　緑川廣忠

次回より短篇講談

拳骨流偉　**甘辛屋の十三**

丈夫と言ふものを一席申述ます

湯本町に 裁縫女學校

二十五日認可

本郡湯本町高木芳太郎氏は同町に私立磐城裁縫女學校を設立すべく過般認可申請中の處二十五日付を以て縣知事より認可されたが來春四月開校の筈で高木キサ子女史校長として主宰すると

金融は極度に行き詰まり搗つて加へて今回の政戰期に出會ひたる爲め從來三日にあげす飲みあぐんだ粹樣連も選擧騷ぎに事寄せて恬と御無沙汰續きに御座候、爲めに料理屋と云ふ料理屋は座敷を締切り藝妓と云ふ藝妓はお茶引を通り越して全くの休業同樣にて上るものは抱主の疳癪玉と質札の利息下るものとては寒暖計の水銀と下の帶のみに候先は近況御報知まで敬具

すずめ

◆新田町より

一筆申上候東京震災に遠い因を發してより地方各銀行は拂出制限となつて

品廉賣化勝る商降伏し
平町五十番
和洋銅鐵
金物問屋
金屋商店

泉　二四五　一六二　る關係を有する事として兩派の前には商業館はさる事

鹿島　一〇二　七七　共に最大限の努力を捧げたが非常なる痛手であつたらつあるは今次の票數が明

玉川　一四六　八三　事は過去何時の時に於ても しい、而して內郷村は絶對に物語つてゐるもので政友

江名　二六六　一〇九　見る事の出來ぬ程緊張味を 的憲派の優勢地帶にして井 會は宜しく勝つて兜の緒を

合　一七五一　九九四　見せた即ち井上茂作氏 上派が得る票は約百票乃至 締める態の深い用意と覺悟 を要する事であらう

の多數は金力と手段と術策あるべし

の前に

降伏し

て眞に正義一貫の士を見る事が出來なか

石城 **天氣豫報** 廿八日

南西の[illegible]

事實美談

孝行姉弟（七）

平一　みのる

おでんを安く賣らうと思へばおでんの種を仕入れるのも上手に仕入れなければならず砂糖や醬油を使ふにも無駄のない樣に、よほど手加減をせねばならぬのである、若し原料に金が掛つていくらおでんを賣つても損ばかりせねばならぬのであつた。かうした點に注意を拂ふと言ふことは、十四歳の少女として餘りに荷が勝ちすきるのである。これには菊江もほと〳〵弱つて誰に相談しようも相手は病人の父親と幼い弟であるからどうすることも出來ないので、自分の知慧のありだけを絞つて原料に金のかゝらぬ樣なるだけ安くあがる樣と、それぱかり苦心をして居た。然しおでん屋も澤山あるのだから原料を安くすることばかりに氣を入れてしいても又苦しいとも思つて居ておでんが不味くなるやうなことがあるとお客が買つてくれなくなるからおでんはおいしくて、そして安くあげねばならぬので、菊江の苦心と言ふものは尋常一樣なことではなかつた。菊江の苦心はそれぱかりではない、おでんの賣れるのは多く寒い夜であつたから凍つく樣な寒い晩などは常よりも遲く二時三時までも屋臺店を張つて居なければならぬので、その辛さと言ふものは容易ならぬものであつた。

かうして喜一と菊江とが身を粉に碎いて親や弟を養つて居ると言ふことが東京市の社會局にまで知れたので大正十一年の十二月から一日九合宛の割で東京市から深川區役所の手を經て米を給與することになつた。又そのことを聞き傳へた大傳馬町の履物問屋の主人が夜店で賣るなら下駄や鼻緒を貸してやらうと言つて來たので今年の正月から喜一は古雜誌や玩具の外に下駄や鼻緒を賣る樣になつた。

そうして僕は小學校を卒業すぱかり苦心をしてりだ。今からして夜店商をして居るのは商業の實地研究をして居るのだから耻かしいことを言つてゐるそれを校長や東京市に知れて少年少女の模範として姉弟とも表彰されました。

今回の東都の震災の爲め親子四人の者はどうなりましたかおしき處で筆をとめることにいたします

◇高級品大廉賣

今春以來大廉賣致し居候牛肉は今回の東都大震災ど共に最も適當なる見舞品として俄に大數量賣盡し品切と相成候に付食糧品缺乏の折柄奉仕的に左記高級品大廉賣仕候間陸續御買上願上候

高級食料品廉賣

桃太郎印牛肉大和煮一鑵　金七拾五錢
矢印Y牛肉同　金七拾錢
矢印燒牛肉同　金六拾五錢
藤野上等鮭ボイルト同　金四拾錢
上等蟹ボイルト同　金九拾錢
興產會社上等赤具同　金參拾五錢
日本橋漬同　金五拾錢
金大黑印福神漬同　金四拾錢
米國リビー社いろは漬同　金參拾八錢
パイナップル二ポンド入一鑵　金壹圓拾錢
桃梨子同　金壹圓拾錢
仝同　金壹圓

磐城國平町二丁目
西村屋藥舗
電話長三番

藥は！
親切第一
買良い店
平町一丁目
大平屋藥舗

平町二丁目
江島屋洋服店
呼出し　電話四一五番

親切本位
御料理
川歌
新田町

期節向
ざるうば
ひやむぎ
西洋料理　御定食三品
金五十錢
平驛前通
日乃出屋
電話四番